



教育目標

誰一人取り残さない 子供が育つ学校づくり

人生という「旅」を楽しもう（卒業式の式辞より）

校長 白田 敏幸

五名の卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。中学校の制服に身を包み、卒業証書を持つみなさんは、伝統ある谷地西部小学校の卒業生にふさわしく、誠に堂々としています。六年生と卒業生の違いとは、まさに、このような姿をいうのでしょうか。

振り返れば、みなさんは最高学年として、上級生としてのやさしさと温かさ、そして、はじけるようなエネルギーにあふれていました。清掃活動や登校班でのやさしい言葉かけのおかげで、下学年の子供たちは安心して活動することができました。6月に行われた運動会では、最高の運動会を創り上げるために、友達と意見をぶつけ合いながら、また、自分の行動を振り返りながら、自分たちが描く最高を目指しました。運動会終了後、グラウンドで、教室で、みなさんが流したあのたくさんの涙は、今でも私の心に焼き付いています。

さて、卒業するみなさんに、私から、二つの言葉を贈ります。

一つ目は、「過去の出来事、いわゆる過去に起こったことは変えることはできないけれども、その出来事の意味付けは変えられる」ということです。皆さんはこれまで、様々な失敗をしてきたと思っていることでしょうか。失敗と思っている、ということは、その時点で前に進むことをやめていたのかもしれませんが。その失敗と感じた経験を受けてやり直したり、次の行動に生かしたりして成功するまで続ければ、その失敗、いわゆる経験は、みなさんにとって必要であったということになります。つまり、あきらめなければ、挑戦を続ければ、理論上この世の中に失敗なんてあり得ないということになります。そう考えると、失敗なんて怖くありませんか。大抵の失敗は後から笑い話になります。みなさんには、たくさんの時間が用意されています。失敗を恐れずに、いろんなことに挑戦してってください。

二つ目は、「一人一人の違いを認め、尊重し、周りの人を大切にしてほしい」ということです。私は事あるごとに、人との違いは当たり前にあることで、その違いを大切にすることについて話をしてきました。私たちは、人と同じであることに安心感をもつと同時に、「少数派」、いわゆる自分と違う人やモノを排除しようとする心をもっています。このような人との違いを認めない社会は、不自由で、息苦しく、傷つけ合う社会です。そうではなく、一人一人の違いを「その人の個性」として捉え、まずは、あなたのまわりにいる人を大事にしてほしいのです。みなさんが、新しい可能性を生み出す社会を創ってってくれることを期待しています。

これから、みなさんは、中学校へと進みます。新しい学びが、ワクワクする学びが、待っています。難しい勉強もあるかもしれませんが。つらい経験もするでしょう。でも大丈夫です。みなさんは、この谷地西部小学校で、「自ら行動する力」、「人を大切にする力」、「考え抜く力」を、しっかりと身につけたのですから。これらの力を発揮して、楽しく、充実した中学校生活を送ってください。先生方を始め、5年生以下後輩全員が、みなさんのことを心から応援しています。

さあ、卒業生のみなさん、別れの時が来ました。谷地西部小学校とみなさんの間に残された時間は、ほんのわずかです。出会いがあれば別れもある。それが人生です。分かれとは寂しく、悲

しいものですが、卒業という別れには、新しい扉、という希望も感じます。谷地西部小学校で学んだみなさんには、自ら行動できる力があります。人を大切にできる心があります。そして、新しいことに挑戦できる勇気があります。自分に自信をもち、力強く前に進んでください。

こんなに楽しい谷地西部小学校をつくってくれてありがとう。みなさんの人生という道のどこかで、再びすれ違える日が来ることを楽しみにしています。

それでは、卒業生のみなさん、よい仲間をつくって、一人一人の人生という旅を楽しんでください。いってらっしゃい。

【修了式 児童代表の言葉】

僕が一年間で出来るようになったことは、二つあります。

一つ目は、目標をもって勉強に取り組むことです。今までの僕は、なんとなく毎日の授業を受けて、先生に言われたことをやるだけで、何のために勉強するのかがよくわかりませんでした。でも、6年生になってからは、将来の夢をかなえるためにはしっかりと勉強することが必要なことだと気付くことができました。これからもこの気持ちを忘れずに勉強に取り組んでいきたいと思います。そして、夢を叶えられるようにがんばりたいです。

二つ目は相手の事を考えて行動する事です。今年は、掃除の班長や委員会の委員長を任されました。例えば、掃除の時間では、教える時に一緒にやってみたり、出来る事をお願いしたりして工夫する事ができました。一人で大変そうな人には手伝いに行きました。これからも、気づいてフォロー出来ればいいなと思います。

ぼくは、この一年間を通してできるようになったことや得意になったことを中学校生活でも生かして、色々なことにチャレンジしていきたいと思います。

6年 鈴木 蓮



ぼくは、算数がうくなりました。友達が、「すごいね。」

と言いました。水を入れて比べる勉強と引き算をがんばりました。算数が好きになりました。

できるようになったのは、なわとびのサイドクロスです。

「サイドクロスができたよ。」

と言ったら、友達が、

「すごい。」

と言いました。サイドクロスができてうれしかったです。

楽しかったことは、雪遊びです。二年生とジャンプコースを作りました。友達が、「ジャンプ台を作ろう。」

と言いました。すごくジャンプするコースができました。そりすべりのコースをつくるのが楽しかったです。

二年生になったら、勉強がもっとうまくなりたいです。

1年 田宮 直幸



【6年生へ感謝を伝えました ～6年生を送る会～】

3月6日(木)に、4・5年生が企画・運営を担当した、6年生を送る会を実施しました。

会の中で、全校生でゲームを楽しんだり、一人一人がお世話になった6年生へ感謝を伝えたりしました。令和6年度のよい思い出をつくることができました。

5名の6年生



じゃんけん王



タグおに：6年生がつけているタグを、5年生以下が取り合います。



感謝の言葉：一人一人が自分の言葉で伝えました。



色紙のプレゼント

令和6年度末の人事異動(3/21 現在)

今回の人事異動により、5名の教職員が退職及び他校へ離任することとなりました。保護者・地域の皆様には、一方ならぬご指導やご厚情を賜りありがとうございました。この場をお借りし、御礼申し上げます。

それに伴い、6名(学級増のため教員も1名増になります。)の新たな教職員が赴任いたします。旧職員同様、保護者・地域の皆様よりのご指導、ご鞭撻、よろしくお願いいたします。

校長 白田 敏幸(寒河江市立南部小学校へ)

教頭 増川 秀一(寒河江市立三泉小学校へ ※校長 新採)

主任主査 須藤 純子(退職)

養護助教諭 武田 愛里紗(退職) ※新採養護教諭として、河北町立溝延小学校へ

学習・生活指導補助員 横山 晶子(河北町立谷地中部小学校へ)

【転入する職員】

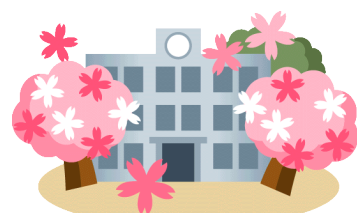
校長 荒木 康子(河北町立谷地南部小学校より ※校長 新採)

教頭 佐藤 和也(山形市立第十小学校より ※教頭 新採)

教諭 後藤 恵美(寒河江市立醍醐小学校より)

学習・生活指導補助員 森 敬樹(新採)

※「養護助教諭及」び「主事」は未定



【卒業証書授与式】

3月18日(火)に、令和6年度の卒業証書授与式を挙行了しました。(卒業生は5名)

昨年度より、「より卒業生を中心に据えた卒業式」「谷地西部小学校だからこそできる卒業式」を創ることをテーマとし、式の内容を変えています。具体的には、卒業生一人一人が6年間を振り返り、思い出や感謝の言葉を話す時間を一人2分～3分程度設定したことです。(その分、「わかれの言葉(全校生による呼びかけ)」を削除しました。)低学年の頃は学校に来ることが億劫だったことや、親への感謝、中には、5年生へ来年度の西部小学校を託す言葉を話した卒業生もいました。卒業生が自分の思いを自分の言葉で話す場を設定できたことは、本当によかったと思っています。そんな卒業生の姿を憧れの目で見ていた在校生が印象的でした。

